

第144図 7世紀第I四半期の土器と地域

後者の場合、飯積遺跡は、飯積遺跡を取り巻く周辺地域から選抜された人々によって、編成された開発集落といえる。

6世紀第Ⅲ四半期

集落の北側の谷は、洪水砂によって覆いつくされていたが、集落は再び復興した。集落の規模は変わらず、依然、大形住居や小形住居からなる編成は維持された。ただし、堅穴住居の覆土に洪水砂はなく、集落全域が洪水砂で覆われた可能性は低い。

出土土器の傾向をみると、群馬東部の土器がやや少なくなるが、全体的にバランスよく供給されていた。ことに佐野周辺や埼玉南部の土器が上昇し、相対的に栃木南部、茨城西部の土器が低下した。集落の北側を流れていた河川が埋まり、別のルート、または、流路方向の変更とかかわるかもしれない。

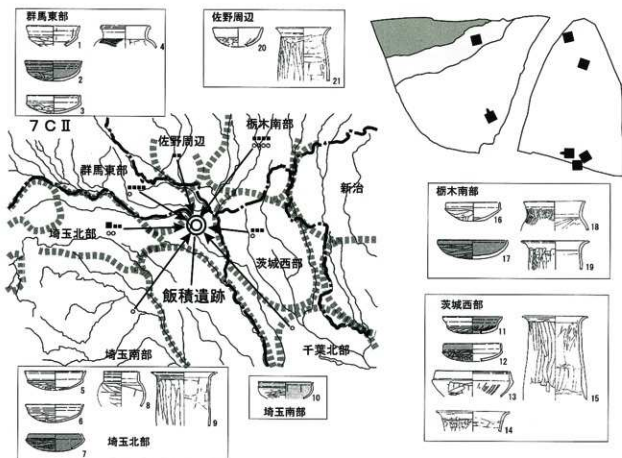
このころ、埼玉古墳群では、千葉県鋸山付近で産出する多孔質の「房州石」が運ばれて、將軍山古墳の横穴式石室に用いられた。元来、埼玉古墳群のある行田市周辺は、横穴式石室に用いる石材が乏しく、利根川を遡って角閃石安山岩を採取するか、荒川を遡って緑泥石片岩を獲得するしかない。

このような首長層間のネットワークとは別に、集落間または地域間の交流によって、飯積遺跡では、同遺跡を取り巻く各地域の土器が用いられた。

6世紀第Ⅳ四半期

集落は散漫となり、大きくばらついてくる。堅穴住居の数も減少し、編成の秩序がみられない。依然、埋没した流路跡には、堅穴住居はないが、かつて河川の縁に堆積した粘土層内へ堅穴住居が進出した。

飯積遺跡から出土した土器は、群馬東部の土器が



第415図 7世紀第Ⅱ四半期の土器と地域

急速に減少し、埼玉北部の土器が過半を占めるようになる。栃木南部、茨城西部の土器も前段階と同量の供給を見る。ことに埼玉北部の土器が上昇する点は、埼玉古墳群との関係で説明することができる。

つまり、埼玉古墳群も最後の前方後円墳を築く段階となり、行田市小見真観寺古墳、若王子古墳、葛蒲町天王山塚古墳など、埼玉古墳群の周辺にも大形前方後円墳が築かれ、埼玉東部でも各地に小地域権力が成立した。

そして埼玉古墳群の地域権力が及ぶ範囲の集落は、埼玉北部と埼玉南部の土器が共通して用いられる傾向にあった。行田市築道下遺跡、蓮田市荒川附遺跡、そして飯積遺跡である。

また、埼玉北部と群馬東部で用いられた有段口縁坏は、この段階になって、埼玉東部から東京湾岸、印旛沼周辺地域まで拡散したが、分布の東北端は、飯積遺跡であった。

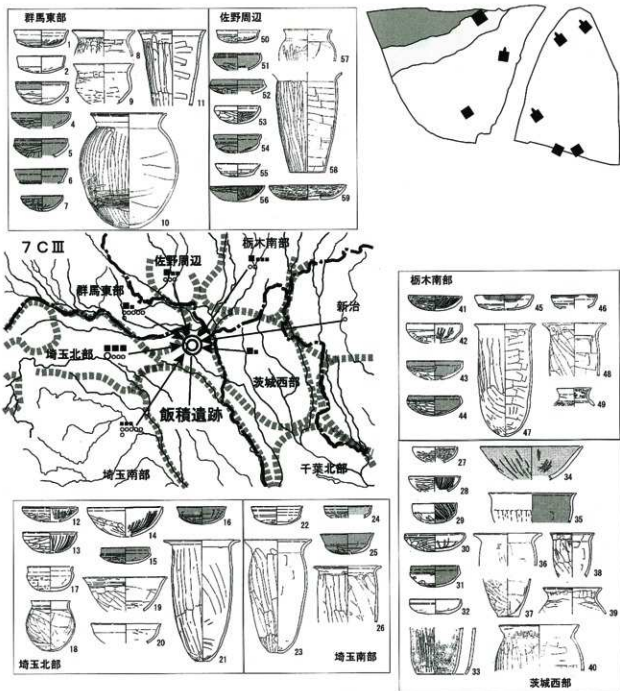
逆に栃木南部、茨城西部の土器が分布する西の限界は、渡良瀬川、古利根川のラインであり、飯積遺跡が、その結節点となっていた。

前方後円墳という地域首長の象徴的なモノUMENTが無くなる時代、後の評や国の枠組みの原型となる地域の範囲が、このような形、つまり飯積遺跡で埼玉北部の土器が、最も多く用いられていたことを確認できた意義は大きい。

7世紀第Ⅰ四半期

流路跡の埋没砂層の中に堅穴住居が進出する。堅穴住居の数はやや増え、分布はより散漫となる。出土土器は極端に減るが、埼玉北部の土器が、より主体的に消費された。群馬東部はさらに減少するが、栃木南部、茨城西部の土器は一定量を保っている。

このように、各地域の土器が飯積遺跡にはもたらされ続けたが、技術的な相互交流のあった地域と、交流のない地域が存在する。すなわち、①群馬東部



第416図 7世紀第Ⅲ四半期の土器と地域

と埼玉北部の間、②栃木南部と茨城西部の間には、相互技術交流があったが、①と②の間には、まったく技術交流がなかった。

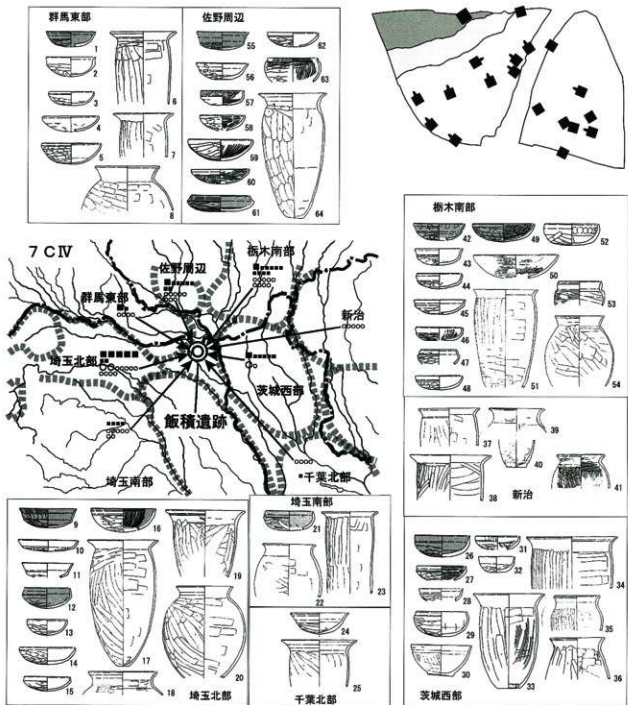
東国各地で前方後円墳が終りを迎え、あるいは古墳に立てられた埴輪も立てられなくなるなど、それまでの秩序が大きく変わったこの段階、飯積遺跡は衰退の道を歩んだ。

ところで、集落の土器が、同一比で各地域からも

たらされ続けたことは、集落が衰退しても飯積遺跡が、地域の結節点としての役割を担っていた現われである。

7世紀第Ⅱ四半期

集落の規模は前代より減少し、分散化の傾向は引き続きみられた。出土土器は、さらに埼玉北部の土器が主体を占め、群馬東部、栃木南部、茨城西部の土器が加わる。出土土器の量は、大幅に減少した。



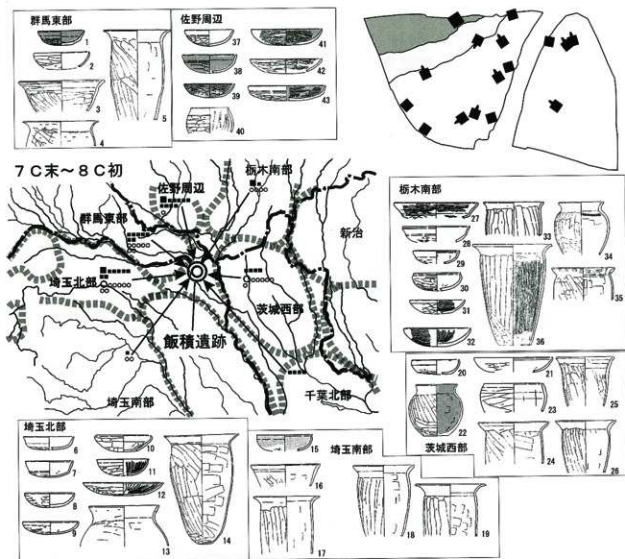
第417図 7世紀第IV四半期の土器と地域

大形前方後円墳を築き続けた埼玉古墳群だったが、中の山古墳をもって前方後円墳の時代に終わりを告げ、続いて方墳の戸場口山古墳が築かれた。しかし、戸場口山古墳以前の埼玉古墳群の栄光はなく、その凋落振りは大きい。

代わって登場したのが、行田市若小玉古墳群の八幡山古墳である。八幡山古墳は、畿内王権の中樞人

物のみが用いた漆塗木棺を巨大な横穴式石室に納めるなど、畿内王権と密接なかかわりのあった人物を被葬者として考えられる古墳である。

具体的には、『聖徳太子伝略』に登場する聖徳太子の舎人、物部兄麻呂である。その彼の生きたこの時代、飯積遺跡は凋落しつつあった。兄麻呂の時代にあっても、飯積遺跡の地域に果たす役割は、低く



第418図 7世紀末から8世紀初頭の土器と地域

なかったはずであるにもかかわらず。

7世紀Ⅲ四半期

集落の減少化に歯止めがかかる。堅穴住居数は変化ないが、出土土器の量は、急速に上昇した。埼玉北部が主体であったことに変わりはないが、佐野周辺や埼玉南部の土器が積極的に用いられ始めた。群馬東部、栃木南部、茨城西部の土器も一定量みられる。しかし、6世紀のように栃木南部、茨城西部が突出することはなくなった。

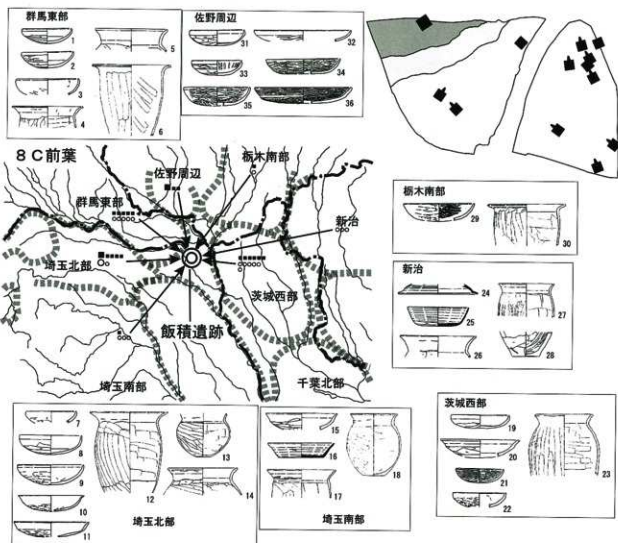
地域が、「郡」の前身である「評」として編成されたこの段階、飯積遺跡は、埼玉東部の地域とともに「埼玉評」の一角として編成されたと考えたい。それは、集落の発生当初から断固として長い煙道の

カマドを使い続けたこと、埼玉北部の土器が主体として消費されたことなど、埼玉郡域の行田市や羽生市などの遺跡と共通するからである。

飯積遺跡の隣接地から横穴式石室の使用石材（角閃石安山岩）が出土したことも群馬東部、埼玉北部とのかわり強い。さらに国境策定にあたって、埼玉北部の土器が圧倒的に多い状況は、飯積遺跡が武蔵国に組み込まれていたことを裏付ける。

また、この段階、畿内の暗文土器を模倣した土器が、関東各地で作られた。飯積遺跡へも埼玉北部、佐野周辺、栃木南部、茨城西部の暗文土器がもたらされた。

7世紀Ⅳ四半期



第419図 8世紀前葉の土器と地域

急落規模はさらに増加し、出土土器量も豊富となる。埼玉北部の土器が、他を圧倒していた。その一方で、群馬東部の土器はとても少なく、佐野周辺や栃木南部、茨城西部の土器が豊富にみられた。

堅穴住居が、流路跡の洪水砂層の上に乗って進出するなど、その急速な発展ぶりを知ることができる。この段階の河川が、飯積遺跡のどこのあたりを流れていたか、知ることはできない。しかし、飯積遺跡の北側や西側を取り巻くように流れていたと考えたい。

そして、埼玉評は、評の東北にある飯積遺跡を管轄下に置き、各地域の結節点としての役割を飯積遺跡に引き続き負わせていた。埼玉評は、この段階、大形河川沿いに点々と中継基地的な集落を築き、埼玉東部に網目状に広がる河川網を活用して交易活動

に当たっていた。

前代から続く行田市築道下遺跡、同市小針遺跡、蓮田市荒川附遺跡に加え、春日部市小湖北遺跡、加須市水深遺跡などは、前段階に登場し、この段階に急速な発展を遂げる。このような急速な上昇は、飯積遺跡でも共通する現象である。なお、埼玉評の官衙施設群は、埼玉古墳群より西、大里評、幡羅評に近い場所にあったと考えたい。

7世紀末から8世紀初頭

集落の規模は大きく変わらず、集落の編成も共通する。東国では、この段階前後に掘立柱建物群が、集落にみられ始めるが、飯積遺跡では、ついに掘立柱建物を確認できなかった。飯積遺跡に官衙機能がなかったとみるか、周辺に官衙機能を備えた遺跡が



第420図 8世紀第Ⅲ四半期の土器と地域

あるかは、判断できない。

出土土器は、前段階の傾向を引き継ぐが、群馬東部と佐野周辺がやや上昇する。渡良瀬川水系の地域から土器の供給が増加したことは、東山道が、太田市、足利市、佐野市というルートを通り、下野国西部の集落編成と連動したためかもしれない。

8世紀前半

集落の規模は変わらず安定的である。しかし、土器の出土量は極端に減少した。埼玉北部、佐野周辺が主体であることに変わりはないが、栃木南部や埼玉南部は、一段と減少する。

この段階になると古墳時代の土器はまったく姿を消し、斉一的な皿形、または碗形の食器で構成されるようになる。その一方で甕は、より地域性を発現し、いわゆる「国別土器」が登場する。しかし、

飯積遺跡は、やはり各地域の土器を引き続き消費しており、国境策定以降も行政的な枠組みとは別に、土器が獲得されていたことがわかる。

それは、令制下も引き続き飯積遺跡が、国境の集落として、各地域の結節点の役割を果たしていた証しである。

8世紀第Ⅲ四半期

ところが、飯積遺跡の役割も、この段階をもって徐々に消え、集落規模も小さくなる。出土土器も減少し、埼玉北部の土器がその大半を占め、各地域の土器はとてまなくなる。この段階をもって集落は移転し、飯積遺跡の担った役割も移動した。

そして、飯積遺跡はその後、10世紀前半まで、わずかに、二軒の竈穴住居が細々と建つ集落となっていました。

註

(1) 復元にあたっては、架構材を補強材の最高地点に渡したが、補強材の残存状況に大きく左右され、問題が無いわけではない。補強材は、完形やこれに近い土器が多く用いられ、この場合、当然焚き口の高さはこれ以上となる。復元した焚口高は最低値と理解したい。

(2) 逆位の場合、破砕した甕の肩部には、大型甕を支持するだけの強度が無いことが復元過程で明らかになった。正逆ではほぼ同じカーブを描く個体でも、甕を受けるために作られた口縁部と、破損の結果現れた肩部では強度に大きな差がある。

(3) カマド右脇のピット1に埋設された土師器甕

(14)の胴部上半が、口縁部を床面よりわずかに突き出して出土した。

(4) 地形の復元にあたっては、時期ごとの床面レベルから推定された傾斜を、確認面の最高地点を通るようにした。「確認面=当時の旧地表」とは考えないが参考にはなるだろう。

(5) 8世紀前半以降の住居跡に第28号住居跡や第25号住居跡などを挙げられる。調査時、これらは灰褐色土(第6図基本土層の1層)で確認できたのに対し、同層では古墳時代後期の遺構は、これより下層の褐色土(第6図基本土層の2層)まで掘り下げないと確認できなかったという調査所見とも合致し、自然堤防発達の傍証となる。

(6) ここでは、流路跡埋没後の自然堤防の発達要因を、北側の調査区域外の流路に求めたが、飯積遺跡が利根川の自然堤防上の遺跡である以上、自然堤防南側の土砂供給を考慮に入れる必要はある。しかしながら、ここでは、南側のデータが一切ないため、北側からの供給を考えた。

(7) 流路変更とは、本遺跡の流路跡と西側を流れる南北方向の流路の同時並存を否定するのではない。

ただし、本遺跡においては、両流路の下限は「東西方向→南北方向」の時間差が確実にあり、この意味における流路変更である。

(8) 武井氏は、中世の文書、記録、金石文から、荘園・公領の地名を収集、地図上にプロットし、当時の武蔵国と上野国、下総国の国境を復元し、利根川流路を推定した。これによれば、上野国邑楽郡域佐貫荘の史料に見る上野国関係の地名から、13~15世紀頃の利根川流路を、邑楽台地南側を東流し、飯積遺跡周辺で北流に転じるものと推測している。

(9) 洪水層確認遺跡は本遺跡以外に、谷田川流域で4例(沼田南遺跡・花和田遺跡・岡西遺跡・伊勢ノ木遺跡)、利根川・合の川流域で2例(新村下遺跡・城遺跡)の6例が見られる。時期が明らかにされたのは、沼田南遺跡(6世紀後半以降平安時代までの間)や花和田遺跡(古墳時代中期以降)、新村下遺跡・城遺跡(9世紀代)などで、飯積遺跡の洪水層は決して特殊なものでなく、洪水常習地帯のありふれた現象の一つであったようだ。

(10) 『板倉町史』考古資料編別巻9「6総括-道明山古墳・舟山古墳・筑波山古墳について-」中の第293図参照(宮田1989)。

(11) 本来ならば、住居ごとにこの地域の土器をいつ獲得したかを分析し、その集積によって、集落全体の土器の消費実態をはかるべきである。しかし、ここでは、集落が土器を獲得した単位として考察を進めることとする。

(12) この地域圏は、今後も遺跡調査数の増加によって、分布範囲がより限定的となっていく。また、本来、時期によってこの範囲は、弾力的に変化していたはずであるが、ここでは便宜的に一定化した。なお、荒川から古利根川にかけての地域は、埼玉北部、埼玉南部の地域の土器が混在して用いられ、この地域独自の土器は見出すことができない。

第182表 土器構成表(1)

5世紀第Ⅲ四半期

群馬東部	口縁部が長く胴部最大径が上位にある土師器の甕(1)、ゆるいカーブを描きつばまる大形甕(2・4)、須恵器を模倣し、口縁部に一条の沈線を描く壺(3)などがある。
埼玉南部	口縁部が「く」の字に屈曲し、赤彩を施した小形の鉢(5)。
茨城西部	坏は、内湾する半球形(6)と、外反する須恵器環帯系(7)がある。甕は、口縁部が長く、直立しつつ外反する(8)と、小さく外反し口唇部内側が凹む(9)がある。両者とも器壁が厚ぼったく、外面を細かく磨いている。
栃木南部	柱状の脚部で裾が「ハ」の字に開く高坏(10-13)は、細かなミガキと赤彩を施した(10・11)と、口縁部内面にミガキを施す(12)がある。甕(14)は、口縁部が短く、口縁の開きが大きい。

第183表 土器構成表(2)

5世紀第Ⅳ四半期

群馬東部	坏には、須恵器の坏蓋を模倣した坏(1-3、5)、坏身を模倣した坏(4)、口縁部の屈曲する鉢形の坏(6)などがある。赤彩はない。5のみ内面にミガキが施される。高坏は、坏部が、須恵器坏蓋を模倣した(7)と碗形(8)の小形高坏、坏部が大きく八字に開く大形高坏(13・14)がある。壺は、口縁部の短い胴型(10・11)である。胴部上半に最大径のある壺(15)は、口縁部が長い。瓶は、前代からの変化に乏しい。このほか大形の瓶(12)がある。
埼玉北部	坏には、須恵器坏蓋模倣坏(16-18)、碗形の坏(19)がある。高坏は、口縁部が大きく外反し、胴部が二段となる大形高坏(20)と小形高坏(21)がある。瓶は頸部の広い大形瓶(22)である。
埼玉南部	坏は、赤彩を施した須恵器坏蓋模倣坏(23)である。壺は、器壁の薄い長胴型である(24)。
千葉北部	組成の鉢形土器(25)、器壁の厚い大形瓶(26)がある。
茨城西部	坏は、半球形の碗形をした(27-29)と、須恵器坏蓋を模倣した(28)がある。27・29は、細かなミガキの後、赤彩を施している。高坏は、坏部が内斜口縁となる(30-31)。ミガキの後、赤彩を施す。小形の鉢は、外面を細かく磨く小形の鉢(32)と、底部の厚い鉢(33)がある。大形瓶には、底部が小さくすぼまる(34)と胴部に变化の少ない(36)がある。壺は、砲弾形で口唇部が沈線状となる(35)。
栃木南部	高坏は、碗形の坏部と小さな胴部からなる(37)。瓶は、壺の胴部下半をとった(38)と大形の瓶(42・43)がある。両者とも器壁が厚い。鉢(40)は、半球形で細かく削られている。壺は、胴部中央に最大径がある(41)と、外面に刷毛目を施した(39)がある。

6世紀第Ⅰ四半期

群馬東部	坏には、須恵器の坏蓋模倣坏(1-4)、内斜口縁坏(5)がある。前者には大形と小形があり、4は、口縁部が外反する。5には、内面に放射状の斜行暗文はみられない。6の鉢は、須恵器の坏身を模倣した形態である。高坏は、小形の7と大形の8がある。7は、須恵器坏蓋を模倣し、8は「ハ」の字に大きく開く。瓶(13)は、小形のバケツ形である。壺(11・12)は、胴部中央に最大径がある。
埼玉北部	坏は、半球形の碗形(14)、須恵器坏蓋模倣坏(15)、坏身模倣坏(16)がある。坏はやや大型化し、口縁部が外反する。高坏(18)は、口縁部が大きく外反する。壺は、小形の壺(17)と、大形の壺(19)がある。瓶は、小形でバケツ型(20)と砲弾型の(22)がある。壺(21)の口縁部は、二段となっており、胴部は球形である。
埼玉南部	坏は、赤彩を施した須恵器坏蓋模倣坏(23-26)、坏身模倣坏(25)、碗形(24)がある。全て外面底部を除き、赤彩を施している。壺(27・28)がある。27は、球形の胴部、大きく外反する口縁部からなる。28は、無花果形の胴部である。両者とも赤彩を施す。壺(29)は、口縁部が長い。
千葉北部	外反する坏(30)がみられる。
茨城西部	坏は、半球形の碗形(31-33)と、ヘルメット形(34-35)、須恵器坏蓋を模倣した(36-37)がある。32を除き細かくヘラミガキを施す。33-36は、赤彩が施される。37は、大きく外反する付き蓋模倣坏である。全体に器壁が厚い。小形の鉢(38-39)は、頸部の径が大きい。バケツ型の大形瓶がある(40)。壺(41)は、口縁部が小さく、器壁が厚い。
栃木南部	坏は、半球形(42・43)、坏蓋模倣坏(44・45)、碗形(46)がある。細かなミガキを施す42・43、赤彩を施す43・44がある。高坏には、「ハ」の字形に開く47、坏蓋模倣坏を坏部とした49がある。大形の壺は、口縁部が長く外反する48、胴部最大径がやや低い50などがある。他に大形の壺(51)がある。

6世紀第Ⅱ四半期

群馬東部	坏に須恵器の坏蓋模倣坏(1-5)がある。1を除き、器壁はとても薄い。赤彩やミガキを施さない。鉢(6)は、口縁部が小さく外反する。高坏(7)は、口縁部が「ハ」の字に大きく開く。瓶は、大形の瓶(8)と小形の瓶(9)がある。壺(11)は砲弾形である。壺(10)は、球形の胴部に小さな口縁部が付く。
埼玉北部	坏は、須恵器坏蓋模倣坏(12-14、16)、坏身模倣坏(15)がある。なかでも12は、大形で大きく外反する形態である。行田市小針遺跡の土器と共通する。大形の瓶(17)もある。
埼玉南部	坏は、半球形(18)、須恵器坏蓋模倣坏(22)、いわゆる比企型坏(19-21)である。比企型坏は、口縁部が「S」字状となる。全て赤彩が施される。
千葉北部	坏は、碗形(23)と須恵器坏蓋模倣坏(24-26)がある。24は、内面に斜行の放射状ミガキを施す。高坏(27)は脚部が厚い。小形の壺(29)は、口縁部に小孔が見られる。このほか鉢(28)、瓶(30)、壺(31)がある。瓶は、内外面を細かく磨く。壺の口縁部は長い。外面に細かなミガキが施される。
茨城西部	坏は、低い碗形(32)と坏身模倣坏(34)、須恵器坏蓋を模倣した(33・35-37)がある。ミガキが多用途され、口縁部までおよぶ。32・33は赤彩を施す。38の高坏の口縁部も須恵器坏蓋模倣坏と共通する。鉢は、壺の胴下半部と共通する。このほか小形の壺、三角形の瓶、壺がある。壺は、口縁部から胴部中央まで変化がない。いずれも器壁が厚い。
栃木南部	坏は、低い碗形(43)と須恵器の坏身模倣坏(44-46)がある。43・44は、赤彩が施される。全体に器壁が厚い。高坏(47)は、小さく船かぶる中空の脚部である。瓶(49)は、大形の筒杖形の瓶である。胴部最大径が低い。壺(48)は、砲弾型で口縁部の外反は小さい。
新治	胎土に金雲母が見られる土器を一括した。金雲母は、筑波山麓に産出する粘土に含まれる。壺(55)は長胴型である。胴部最大径は胴下半にある。
佐野周辺	坏には、碗形(50)、須恵器の坏蓋模倣坏(51・52)、坏身模倣坏(53・54)がある。50は、内外面ともに細かく磨かれている。53は、黒色に仕上げられる。

第184表 土器構成表(3)

6世紀第Ⅲ四半期

群馬東部	坏には、須恵器の坏蓋模倣坏(1-3、5)と坏身模倣坏(4)がある。1は小形の坏で、3は大きく外反する。5は、口縁部の低い坏である。6は、口縁部に段のある有段口縁坏である。4・6は、黒色処理が施される。7は、底部が筒抜けの大形瓶である。8は長胴甕である。9は、小形の壺(甕)である。口縁部に沈線がみられる。
埼玉北部	坏は、須恵器坏蓋模倣坏(10-12)、有段口縁坏(13-14)、坏身模倣坏(15)がある。有段口縁坏は、口縁部が3から4段で黒色処理を施す。小形の鉢(16)は、小さく外反する。小形の高坏(17)は、脚部も短い。小形瓶(18)は、鉢形である。長胴甕(19)は、器壁が薄く、口縁部が「く」の字に外反する。
埼玉南部	坏は、扁平な碗形(20)、内脣する口縁(21)、いわゆる比企型坏(22-23)である。比企型坏は、赤彩が施される。壺(24)は、長胴甕で下彫れの器形である。大形瓶(25)は、筒抜けである。
茨城西部	坏は、須恵器坏蓋を模倣した26・28と、坏身模倣坏(27)がある。28は、扁平で口縁部の伸びも短い。坏は、ミガキが多用される。高坏は、口縁部が「ハ」字に広がる29と、坏蓋模倣坏の30がある。壺は、高さの低い31・32や、長胴甕の34などがある。いずれも器壁が厚い。小形の壺(33)や小形の鉢(36)、大形の瓶(35)などがある。また、球形の胴部
栃木南部	坏は、半球形の碗形(38・39)と須恵器の坏蓋模倣坏(40-42)、坏身模倣坏(43-44)小形の鉢(45)がある。38・39は、赤彩が施される。器壁が全体に厚い。瓶(46)は、三角形である。壺は、口縁部の磨きが大きい。
佐野周辺	坏には、碗形(48)、須恵器の坏身模倣坏(49)、坏蓋模倣坏(50-51)がある。48-50は、細かく磨かれている。52は、長胴甕である。53の壺は、口縁部が二段となっている。

6世紀第Ⅳ四半期

群馬東部	坏には、須恵器の坏身模倣坏(1・4)と坏蓋模倣坏(2・3)がある。1は口縁部が、「く」の字状に強く折れる。2は、内面に放射状のミガキが入る。5は、大形の瓶である。
埼玉北部	坏は、須恵器坏蓋模倣坏(6・8)、有段口縁坏(7)、坏身模倣坏(9・10)がある。有段口縁坏は、口縁部が二段となる。9は、黒色処理されている。長胴甕(11)は、器壁が薄い。大形の瓶(12)は、バケツ形である。
埼玉南部	坏は、須恵器坏蓋模倣坏(13)、有段口縁坏(14)、坏身模倣坏(15)がある。14は、埼玉北部の有段口縁坏の模倣である。口縁の直立する壺(16)は、赤彩されている。
茨城西部	坏は、須恵器坏蓋を模倣17と、坏身模倣坏(18)がある。18は黒色処理されている。長胴甕(20)は細長く、胴部下半が小さくつままる。壺は、球形の胴部に大きく口の開く形態である。
栃木南部	坏は、皿形の坏(22)と須恵器の坏身模倣坏(23)がある。高坏は、大形の高坏(25)と小形の高坏(26)がある。両者は、「ハ」字状に広がる。ミガキが多用される。長胴甕は砲弾型で、瓶は広口である。両者とも胴下半を横方向にヘラ削りを施す。
佐野周辺	坏には、須恵器の坏蓋模倣坏(28・30)、坏身模倣坏(29・31)がある。29・30は、黒色処理が施されている。鉢(32)は、壺の胴部下半を切り取った形。

7世紀第Ⅰ四半期

群馬東部	坏には、須恵器の坏蓋模倣坏(1)と坏身模倣坏(2)がある。鉢(3)は、坏身模倣形であり、口縁部が多段構成となる。壺(4)は、広口で器壁が薄い。このほか大型瓶(5)がある。
埼玉北部	坏は、須恵器坏蓋模倣坏(6)、坏身模倣坏(7)がある。壺(8・9)は、器壁の薄い長胴甕である。
茨城西部	坏は、ヘルメット形(10)である。ミガキはない。壺は、小形の壺(11)、長胴甕(12・13)がある。器壁が厚く、輪積み痕が明瞭である。12は、下彫れである。有段口縁坏(14)、坏身模倣坏(15)がある。14は、埼玉北部の有段口縁坏の模倣である。口縁の直立する壺(16)は、赤彩されている。
栃木南部	坏は、須恵器の坏身模倣坏(14・15)である。15は、黒色処理が施される。器壁が厚い。小形の壺(16-18)と大形の壺(19・20)がある。壺の胴下半は、横方向にヘラ削りが施される。19は、口縁部が短く、外面に細かなミガキが入る。

7世紀第Ⅱ四半期

群馬東部	坏には、須恵器の坏蓋模倣坏(1)、有段口縁坏(2)と坏身模倣坏(3)がある。有段口縁坏は、黒色処理されている。壺(4)は、肩の張った球形の胴部である。
埼玉北部	坏は、須恵器の坏蓋模倣坏(5)、有段口縁坏(6)坏身模倣坏(7)がある。坏身模倣坏は、赤彩されている。直立する口縁の壺(8)がある。壺(9)は、器壁の薄い長胴甕である。
埼玉南部	比企型坏(10)がある。赤彩が施されている。
茨城西部	坏は、坏蓋模倣坏(11)と坏身模倣坏(12)がある。両者ともよく磨かれている。13は、坏身模倣坏形の鉢である。壺(15)は、下彫れの長胴甕である。このほか大形瓶(14)がある。
栃木南部	坏は、須恵器の坏身模倣坏(16)、内脣する皿形(17)である。このほか砲弾型の長胴甕(19)と広口の壺(18)がある。器壁が厚く、ミガキがみられる。
佐野周辺	坏(20)は、須恵器の坏蓋模倣坏である。口縁部と胴部の境があいまいである。壺(21)は、長胴甕で器壁が厚い。

第185表 土器構成表(4)

7世紀ⅢⅣ四半期

群馬東部	坏には、須恵器の坏蓋模倣坏(1~4・6)、坏身模倣坏(5)、内脣口縁坏(5)がある。坏蓋模倣坏は小形化し、底部の扁平化も進む。4~7は黒色処理が施される。小形の鉢(9)は広口の鉢である。甕(8)は、薄つくりの長胴甕である。瓶(11)は、胴部の張らない筒型となる。壺は、球形の胴部に広口の口縁部が付く。
埼玉北部	坏は、須恵器の坏蓋模倣坏(16)、坏身模倣坏(15)、暗文土器(12~13)がある。暗文土器は、大小があり、内面のみ放射状の暗文を施す。15・16は、黒色処理が施されている。鉢は、小形の17と大形の19・20がある。甕には、小形の甕(18)と長胴甕(14)がある。器壁がとても薄く削られている。
埼玉南部	坏には、有段口縁坏(22)、比企型坏(24・25)がある。24・25には赤彩が施される。長胴甕(23・26)は、器壁が薄く砲弾型である。
茨城西部	坏は、坏蓋模倣坏(29)と坏身模倣坏(30~32)、暗文土器(27・28)がある。29は、内面に斜行放射状暗文を施す。30・31は、内面に赤彩が施される。34は、高坏か、大形の鉢である。瓶(33)は、筒状の底部に受け用の穴を穿つ。甕は、小形の甕(37・38)と大形の甕(36・39・40)がある。胴部下半は横位に開く。
栃木南部	坏は、暗文土器(41)、須恵器の坏身模倣坏(42~44)、坏蓋模倣坏(45・46)がある。坏身模倣坏は、内脣口縁坏との違いが少ない。坏蓋模倣坏は、口縁部が内湾しながら立ち上がる。このほか砲弾型の長胴甕(47・48)と壺(49)がある。長胴甕は、胴部下半が横へう開りとなる。全体に器壁が厚く、ミガキがみられる。
佐野周辺	坏は、須恵器の坏蓋模倣坏(50・54・55)、坏身模倣坏(51・52)、椀形土器(56)、皿形土器(59)がある。53・56・59には、細かなミガキが施されている。埼玉東北部の土器に比べ、全体に器壁が厚い。このほか、長胴甕(57)、瓶(58)などがある。58の瓶は、長胴化が進む。

7世紀ⅣⅣ四半期

群馬東部	坏には、須恵器の坏蓋模倣坏(1・2)、内脣口縁坏(3~5)がある。両者ともミガキは施さない。1は、黒色処理されている。甕は、長胴甕(6・7)である。胴部は、斜めにへう開りされている。壺(8)・甕ともに器壁はとても薄い。
埼玉北部	坏は、有段口縁坏(9)、須恵器の坏蓋模倣坏(11)、坏身模倣坏(12)、内脣口縁坏(13~15)、暗文土器(16)がある。16を除き、他は内外面を磨かない。甕(17)は、長胴甕で胴部を斜めにへう開りする。器壁はとても薄い。瓶(19)は、口縁部が二段となる。壺(18・20)は、球形の胴部に広口の口縁部が付く。
埼玉南部	坏は、比企型坏(21)である。赤彩が施される。長胴甕(23)は、寸胴で長い。壺(22)は、胴部の最大径が低い。
千葉北部	坏(24)は、ヘルメット形の形態をしている。口縁部と底部の境は沈線状である。長胴甕(25)は、胴部の張りが少ない。
茨城西部	坏は、坏身模倣坏(26・28~31)と内脣口縁坏(27)である。ただし両者の境はあいまいである。27は、内面に細かなミガキが残る。鉢(32)は、長胴甕の胴部下半と共通する。瓶(33)は、長胴甕(34~36)は、なで甕である。全体に器壁が厚い。
新治	長胴甕(37・38)は、胎土に金雲母(茨城県筑波山麓起源)を含む。39は、なで甕のつばである。40は、粗製の小形甕である。
ハケメ甕	41は、内外面をハケメ調整で仕上げた甕である。口唇部が受け口状となっている。
栃木南部	坏は、須恵器の坏身模倣坏(47)、坏蓋模倣坏(42~46)、内脣口縁坏(48~52)がある。坏蓋模倣坏は、口縁部が「S」字状に内湾しながら立ち上がる。長胴甕は、砲弾型で口縁部は短い。胴部下半が、横方向にへう開りされている。このほか小形の鉢(53)、広口の甕などがある。
佐野周辺	坏は、須恵器の坏蓋模倣坏(55・56)、坏身模倣坏(57・61)、暗文土器(58~60)、内脣口縁土器(62)がある。鉢(63)も内面に細かな放射状暗文を施す。長胴甕(64)は、器壁が薄い。外面を細かな単位でへう開りを行う。

7世紀末~8世紀初頭

群馬東部	坏には、須恵器の坏蓋模倣坏(1)、内脣口縁坏(2)がある。両者ともミガキは施さない。1は、黒色処理を施す。3は、大形の鉢である。口縁部は大きく屈曲する。長胴甕(5)は、肩が張らない。胴部は、斜めにへう開りされる。壺(4)・甕ともに器壁はとても薄い。
埼玉北部	坏は、須恵器の坏蓋模倣坏(6・7)、内脣口縁坏(8~10)、暗文土器(11・12)がある。暗文土器は、椀形(11)と皿形(12)がある。他は、へうミガキ、黒色処理を施さない。甕(14)は、長胴甕で胴部を斜めにへう開りする。器壁はとても薄い。壺(13)は、球形の胴部である。
埼玉南部	坏は、比企型坏(15)である。赤彩が施される。長胴甕(17~19)は寸胴で長く、器壁が薄い。瓶(16)は、三角形である。
栃木南部	坏は、須恵器の坏身模倣坏(27~29)、坏蓋模倣坏(42~46)、内脣口縁坏(30)皿型土器(31~32)がある。27・28は大形の器形で、内外面にミガキが入る。皿型土器もミガキを入る。長胴甕(33~35)は、口縁部が短い。瓶(36)は、変化が乏しいが、胴部の底部近くを横方向にへう開りを行う。

8世紀前半

埼玉北部	坏は、内脣口縁坏(7~9)、皿型土器(10・11)がある。ミガキや黒色処理、赤彩などを施さない。甕(14)は、長胴甕で胴部を斜めにへう開りする。器壁はとても薄い。壺は、小形(13)と大形の広口壺(14)がある。
茨城西部	坏は、内脣口縁坏(19・21・22)と外反する皿型土器(20)である。内脣口縁坏には、ミガキを多用する21がある。長胴甕(23)は、胴部最大径がやや低い。口縁部の伸びもやや短い。
栃木南部	坏は、内脣口縁坏(29)で内面を細かく磨いている。甕は、口縁部の短い長胴甕(30)である。

8世紀ⅢⅣ四半期

埼玉南部	南北比企型群で作られた須恵器の坏(8)がある。
茨城西部	椀形の坏(10)がある。煮湯具として、甕、または瓶(11)、貯蔵具として壺(12)がある。
栃木南部	小形の坏(15)がある。ロクロを用いないで作られ、外面には指押さえの跡が残る。

第186表 第408～414園の土器

採回 番号	住居 番号	遺物 番号	地域	採回 番号	住居 番号	遺物 番号	地域	採回 番号	住居 番号	遺物 番号	地域	採回 番号	住居 番号	遺物 番号	地域		
408	1	201	7 群馬県	410	9	79	22 群馬県	411	23	107	11 千葉北	412	33	220	16 茨城西		
408	2	54	7 群馬県	410	10	47	8 群馬県	411	24	107	12 千葉北	412	34	220	15 茨城西		
408	3	251	12 群馬県	410	11	4	10 群馬県	411	25	175	1	千葉北	412	35	199	10 茨城西	
408	4	201	11 群馬県	410	12	36	18 群馬県	411	26	171	3	千葉北	412	36	252	2 茨城西	
408	5	241	3 埼玉県	410	13	47	9 群馬県	411	27	68	3	千葉北	412	37	129	7 茨城西	
408	6	201	1 茨城西	410	14	15	2 埼玉県	411	28	74	6	千葉北	412	38	10	16 栃木南	
408	7	247	2 茨城西	410	15	4	2 埼玉県	411	29	74	5	千葉北	412	39	129	1 栃木南	
408	8	201	8 茨城西	410	16	53	5 埼玉県	411	30	74	9	千葉北	412	40	181	5 栃木南	
408	9	201	10 茨城西	410	17	14	14 埼玉県	411	31	202	4	千葉北	412	41	181	6 栃木南	
408	10	201	5 栃木南	410	18	14	14 埼玉県	411	32	22	1	茨城西	412	42	181	4 栃木南	
408	11	201	6 栃木南	410	19	36	15 埼玉県	411	33	37	1	茨城西	412	43	208	2 栃木南	
408	12	201	4 栃木南	410	20	53	11 埼玉県	411	34	68	1	茨城西	412	44	192	1 栃木南	
408	13	201	13 栃木南	410	21	12	14 埼玉県	411	35	197	10	茨城西	412	45	10	18 栃木南	
408	14	201	9 栃木南	410	22	48	18 埼玉県	411	36	113	5	茨城西	412	46	208	7 栃木南	
409	1	139	1 群馬県	410	23	4	9 埼玉県	411	37	197	11	茨城西	412	47	220	18 群馬南	
409	2	33	1 群馬県	410	24	35	2 埼玉県	411	38	197	8	茨城西	412	48	83	4 佐野周辺	
409	3	234	2 群馬県	410	25	79	9 埼玉県	411	39	68	2	茨城西	412	49	109	7 佐野周辺	
409	4	189	2 群馬県	410	26	36	12 埼玉県	411	40	193	4	茨城西	412	50	109	5 佐野周辺	
409	5	55	5 群馬県	410	27	69	7 埼玉県	411	41	24	5	茨城西	412	51	181	3 佐野周辺	
409	6	225	5 群馬県	410	28	48	17 埼玉県	411	42	197	22	茨城西	412	52	45	1 佐野周辺	
409	7	55	9 群馬県	410	29	36	16 埼玉県	411	43	22	4	茨城西	412	53	109	19 佐野周辺	
409	8	124	1 群馬県	410	30	98	1	千葉北	411	44	171	7	栃木南	413	1	207	9 群馬東
409	9	249	1 群馬県	410	31	41	2	茨城西	411	45	21	2	茨城西	413	2	187	3 群馬東
409	10	251	11 群馬県	410	32	79	8 茨城西	411	46	193	3	栃木南	413	3	207	3 群馬東	
409	11	133	6 群馬県	410	33	59	3 茨城西	411	47	107	14	栃木南	413	4	187	11 群馬東	
409	12	133	9 群馬県	410	34	4	6 茨城西	411	48	180	3	栃木南	413	5	185	7 群馬東	
409	13	79	10 群馬県	410	35	17	6 茨城西	411	49	197	19	栃木南	413	6	187	2 埼玉北	
409	14	255	4 群馬県	410	36	12	5 茨城西	411	50	148	3	佐野周辺	413	7	187	8 埼玉北	
409	15	55	15 群馬県	410	37	30	5 茨城西	411	51	24	2	佐野周辺	413	8	253	6 埼玉北	
409	16	54	4 埼玉県	410	38	48	16 茨城西	411	52	74	3	佐野周辺	413	9	186	2 埼玉北	
409	17	89	2 埼玉県	410	39	12	7 茨城西	411	53	24	3	佐野周辺	413	10	185	3 埼玉北	
409	18	54	3 埼玉県	410	40	47	10 茨城西	411	54	197	13	佐野周辺	413	11	24	2 埼玉北	
409	19	54	5 埼玉県	410	41	12	13 茨城西	411	55	180	2	新治	413	12	187	15 埼玉北	
409	20	79	17 埼玉県	410	42	69	6 栃木南	412	1	109	2	群馬東	413	13	187	1 埼玉南	
409	21	124	8 埼玉県	410	43	17	3 栃木南	412	2	211	1	群馬東	413	14	185	1 埼玉南	
409	22	251	22 埼玉県	410	44	36	7 栃木南	412	3	83	1	群馬東	413	15	253	7 埼玉南	
409	23	251	2 埼玉県	410	45	47	5 栃木南	412	4	10	14	群馬東	413	16	143	4 埼玉南	
409	24	251	16 埼玉県	410	46	66	7 栃木南	412	5	181	1	群馬東	413	17	187	9 茨城西	
409	25	78	6 千葉北	410	47	59	8 栃木南	412	6	220	9	群馬東	413	18	162	1 茨城西	
409	26	89	4 千葉北	410	48	4	13 栃木南	412	7	220	19	群馬東	413	19	39	2 茨城西	
409	27	274	5 茨城西	410	49	85	4 栃木南	412	8	208	6	群馬東	413	20	186	9 茨城西	
409	28	127	3 茨城西	410	50	4	14 栃木南	412	9	10	21	群馬東	413	21	186	13 茨城西	
409	29	251	6 茨城西	410	51	15	15 栃木南	412	10	10	1	埼玉北	413	22	186	4 栃木南	
409	30	78	3 茨城西	411	1	22	1 群馬東	412	11	109	3	埼玉北	413	23	187	14 栃木南	
409	31	225	6 茨城西	411	2	74	1 群馬東	412	12	10	5	埼玉北	413	24	186	6 栃木南	
409	32	234	9 茨城西	411	3	107	2 群馬東	412	13	220	11	埼玉北	413	25	207	10 栃木南	
409	33	133	5 茨城西	411	4	171	1 群馬東	412	14	10	11	埼玉北	413	26	186	11 栃木南	
409	34	234	19 茨城西	411	5	197	1 群馬東	412	15	109	8	埼玉北	413	27	186	12 栃木南	
409	35	251	9 茨城西	411	6	172	1 群馬東	412	16	10	9	埼玉北	413	28	24	1 佐野周辺	
409	36	81	9 茨城西	411	7	107	13 群馬東	412	17	83	5	埼玉北	413	29	143	1 佐野周辺	
409	37	251	9 栃木南	411	8	37	3 群馬東	412	18	181	12	埼玉北	413	30	207	1 佐野周辺	
409	38	251	23 栃木南	411	9	197	21 群馬東	412	19	181	17	埼玉北	413	31	207	7 佐野周辺	
409	39	234	11 栃木南	411	10	171	12 群馬東	412	20	45	2	埼玉南	413	32	143	2 佐野周辺	
409	40	251	12 栃木南	411	11	172	3 群馬東	412	21	109	10	埼玉北	414	1	183	1 埼玉東	
409	41	133	7 栃木南	411	12	21	1 埼玉県	412	22	19	3	埼玉南	414	2	217	1 群馬東	
409	42	184	5 栃木南	411	13	197	4 埼玉県	412	23	219	1	埼玉北	414	3	231	2 群馬東	
409	43	79	25 栃木南	411	14	4	4 埼玉県	412	24	208	5	埼玉南	414	4	3	10 群馬東	
410	1	4	1 群馬東	411	15	171	5 埼玉県	412	25	203	6	埼玉北	414	5	182	2 群馬東	
410	2	12	2 群馬東	411	16	148	1 埼玉県	412	26	83	3	茨城西	414	6	183	3 埼玉北	
410	3	17	2 群馬東	411	17	193	8 埼玉県	412	27	10	15	茨城西	414	7	56	1 埼玉北	
410	4	12	3 群馬東	411	18	37	2 埼玉南	412	28	203	1	茨城西	414	8	176	1 埼玉北	
410	5	79	10 群馬東	411	19	107	10 埼玉県	412	29	109	12	茨城西	414	9	217	9 埼玉北	
410	6	79	11 群馬東	411	20	171	2 埼玉県	412	30	181	9	茨城西	414	10	217	4 茨城西	
410	7	85	3 群馬東	411	21	197	12 埼玉南	412	31	199	5	茨城西	414	11	217	7 茨城西	
410	8	79	12 群馬東	411	22	238	1 埼玉県	412	32	199	6	茨城西	414	12	184	3 茨城西	

第187表 第414~420図の土器

採回番号	住居番号	遺物番号	地域	採回番号	住居番号	遺物番号	地域	採回番号	住居番号	遺物番号	地域	採回番号	住居番号	遺物番号	地域				
414	13	184	1	茨城西部	416	37	52	11	茨城西部	417	43	141	4	栃木南部	419	1	16	5	群馬東部
414	14	217	2	栃木南部	416	38	221	9	茨城西部	417	44	260	8	栃木南部	419	2	16	1	群馬東部
414	15	217	3	栃木南部	416	39	77	16	茨城西部	417	45	260	1	栃木南部	419	3	158	2	群馬東部
414	16	217	8	栃木南部	416	40	221	13	茨城西部	417	46	130	3	栃木南部	419	4	58	3	群馬東部
414	17	106	3	栃木南部	416	41	7	15	栃木南部	417	47	51	3	栃木南部	419	5	158	3	群馬東部
414	18	231	3	栃木南部	416	42	221	5	栃木南部	417	48	141	8	栃木南部	419	6	153	5	群馬東部
414	19	191	1	栃木南部	416	43	7	12	栃木南部	417	49	141	14	栃木南部	419	7	118	1	埼玉北部
414	20	56	2	栃木南部	416	44	7	9	栃木南部	417	50	165	5	栃木南部	419	8	80	1	埼玉北部
415	1	8	1	群馬東部	416	45	139	9	栃木南部	417	51	112	10	栃木南部	419	9	137	1	埼玉北部
415	2	87	1	群馬東部	416	46	135	6	栃木南部	417	52	18	5	栃木南部	419	10	118	4	埼玉北部
415	3	8	2	群馬東部	416	47	139	28	栃木南部	417	53	18	11	栃木南部	419	11	104	4	埼玉北部
415	4	8	7	群馬東部	416	48	72	17	栃木南部	417	54	82	7	栃木南部	419	12	80	8	埼玉北部
415	5	92	1	埼玉北部	416	49	221	14	栃木南部	417	55	76	1	佐野周辺	419	13	80	7	埼玉北部
415	6	87	2	埼玉北部	416	50	135	4	佐野周辺	417	56	86	1	佐野周辺	419	14	16	6	埼玉北部
415	7	92	2	埼玉北部	416	51	139	12	佐野周辺	417	57	260	10	佐野周辺	419	15	20	1	埼玉北部
415	8	87	10	埼玉北部	416	52	77	6	佐野周辺	417	58	130	4	佐野周辺	419	16	80	6	埼玉南部
415	9	87	11	埼玉北部	416	53	52	3	佐野周辺	417	59	18	7	佐野周辺	419	17	20	14	埼玉南部
415	10	87	7	埼玉南部	416	54	52	4	佐野周辺	417	60	174	7	佐野周辺	419	18	153	3	埼玉南部
415	11	87	3	茨城西部	416	55	72	6	佐野周辺	417	61	50	3	佐野周辺	419	19	16	4	茨城西部
415	12	73	3	茨城西部	416	56	77	8	佐野周辺	417	62	50	1	佐野周辺	419	20	16	3	茨城西部
415	13	73	5	茨城西部	416	57	7	22	佐野周辺	417	63	18	9	佐野周辺	419	21	158	1	茨城西部
415	14	73	8	茨城西部	416	58	72	18	佐野周辺	417	64	130	6	佐野周辺	419	22	153	2	茨城西部
415	15	60	2	茨城西部	416	59	77	12	佐野周辺	418	1	3	3	群馬東部	419	23	118	12	茨城西部
415	16	87	6	栃木南部	417	1	44	1	群馬東部	418	2	5	1	群馬東部	419	24	13	3	新治
415	17	8	4	栃木南部	417	2	76	2	群馬東部	418	3	5	5	群馬東部	419	25	20	11	新治
415	18	73	10	栃木南部	417	3	141	6	群馬東部	418	4	94	3	群馬東部	419	26	93	3	新治
415	19	114	2	栃木南部	417	4	174	4	群馬東部	418	5	115	6	群馬東部	419	27	20	16	新治
415	20	114	1	佐野周辺	417	5	141	13	群馬東部	418	6	154	1	埼玉北部	419	28	98	2	新治
415	21	87	12	佐野周辺	417	6	260	15	群馬東部	418	7	146	1	埼玉北部	419	29	93	1	栃木南部
416	1	79	2	群馬東部	417	7	141	21	群馬東部	418	8	111	2	埼玉北部	419	30	20	15	栃木南部
416	2	139	3	群馬東部	417	8	174	16	群馬東部	418	9	111	4	埼玉北部	419	31	16	2	佐野周辺
416	3	52	5	群馬東部	417	9	18	2	埼玉北部	418	10	3	4	埼玉北部	419	32	11	1	佐野周辺
416	4	135	11	群馬東部	417	10	18	6	埼玉北部	418	11	111	3	埼玉北部	419	33	20	2	佐野周辺
416	5	7	10	群馬東部	417	11	209	1	埼玉北部	418	12	111	6	埼玉北部	419	34	13	1	佐野周辺
416	6	7	16	群馬東部	417	12	61	6	埼玉北部	418	13	196	6	埼玉北部	419	35	20	5	佐野周辺
416	7	139	13	群馬東部	417	13	61	7	埼玉北部	418	14	111	12	埼玉北部	419	36	20	7	佐野周辺
416	8	221	11	群馬東部	417	14	141	12	埼玉北部	418	15	115	1	埼玉南部	420	1	108	1	埼玉北部
416	9	139	18	群馬東部	417	15	64	3	埼玉北部	418	16	157	10	埼玉南部	420	2	110	1	埼玉北部
416	10	72	19	群馬東部	417	16	144	3	埼玉北部	418	17	157	8	埼玉南部	420	3	97	1	埼玉北部
416	11	139	26	群馬東部	417	17	112	9	埼玉北部	418	18	147	10	埼玉南部	420	4	108	7	埼玉北部
416	12	135	10	埼玉南部	417	18	141	24	埼玉北部	418	19	159	4	埼玉南部	420	5	97	2	埼玉北部
416	13	52	2	埼玉南部	417	19	64	10	埼玉北部	418	20	19	1	茨城西部	420	6	108	14	埼玉北部
416	14	135	12	埼玉南部	417	20	130	10	埼玉北部	418	21	157	2	茨城西部	420	7	108	17	埼玉北部
416	15	139	10	埼玉南部	417	21	50	2	埼玉南部	418	22	115	4	茨城西部	420	8	108	12	埼玉南部
416	16	7	16	埼玉南部	417	22	174	13	埼玉南部	418	23	19	2	茨城西部	420	9	110	3	千歳北部
416	17	235	3	埼玉南部	417	23	152	4	埼玉南部	418	24	159	2	茨城西部	420	10	108	4	茨城西部
416	18	77	15	埼玉南部	417	24	76	4	千歳北部	418	25	101	8	茨城西部	420	11	108	18	茨城西部
416	19	52	13	埼玉南部	417	25	174	12	千歳北部	418	26	147	11	千歳北部	420	12	117	2	茨城西部
416	20	139	16	埼玉南部	417	26	18	4	茨城西部	418	27	45	1	栃木南部	420	13	108	13	新治
416	21	139	24	埼玉南部	417	27	51	2	茨城西部	418	28	115	2	栃木南部	420	14	108	5	新治
416	22	139	7	千歳北部	417	28	76	3	茨城西部	418	29	159	1	栃木南部	420	15	97	8	栃木南部
416	23	235	5	千歳北部	417	29	51	4	茨城西部	418	30	101	2	栃木南部					
416	24	139	1	千歳北部	417	30	18	5	茨城西部	418	31	147	4	栃木南部					
416	25	7	3	千歳北部	417	31	174	5	茨城西部	418	32	146	3	栃木南部					
416	26	72	16	千歳北部	417	32	188	1	茨城西部	418	33	45	2	栃木南部					
416	27	135	8	茨城西部	417	33	260	22	茨城西部	418	34	101	6	栃木南部					
416	28	77	7	茨城西部	417	34	188	3	茨城西部	418	35	115	10	栃木南部					
416	29	52	6	茨城西部	417	35	141	26	茨城西部	418	36	101	7	栃木南部					
416	30	7	14	茨城西部	417	36	51	16	茨城西部	418	37	147	1	佐野周辺					
416	31	52	8	茨城西部	417	37	149	3	新治	418	38	3	2	佐野周辺					
416	32	135	13	茨城西部	417	38	176	6	新治	418	39	3	5	佐野周辺					
416	33	139	30	茨城西部	417	39	50	7	新治	418	40	157	7	佐野周辺					
416	34	139	17	茨城西部	417	40	41	27	新治	418	41	5	2	佐野周辺					
416	35	139	19	茨城西部	417	41	50	6	新治	418	42	5	3	佐野周辺					
416	36	135	19	茨城西部	417	42	18	3	栃木南部	418	43	196	5	佐野周辺					

引用・参考文献

- 天竺洋一・木暮昌典 1990『成塚住宅団地遺跡Ⅰ』太田市教育委員会
天竺洋一・島田孝雄・堀越利基 1996『延享創造跡発掘調査報告書』太田市教育委員会
新井喜一 1960『北川辺創始の人々』『北川辺史の研究』第1巻 北川辺史談会
安藤美保 2001『谷向・国谷馬場・中の内・惣宮小路』財団法人栃木県文化振興事業団 第255集
石坂俊郎 1995『田島・棚田』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第147集
若瀬謙ほか 2003『如意遺跡Ⅳ』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第276集
岩瀬謙・山本慎 2002『如意Ⅳ/川端』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第276集
上原康子・篠原祐一 1998『清六Ⅲ遺跡Ⅱ』財団法人栃木県文化振興事業団 第218集
上原康子・篠原祐一 1999『清六Ⅲ遺跡Ⅲ』財団法人栃木県文化振興事業団 第227集
上原康子・篠原祐一 1999『清六Ⅲ遺跡Ⅳ』財団法人栃木県文化振興事業団 第228集
江田穂山 1960『古河と北川辺』『北川辺史の研究』第1巻 北川辺史談会
大熊 孝 1981『近世初頭の河川改修と浅間山噴火の影響』『アーバンクボタ』19
大塚孝司 1980『飯橋遺跡』北川辺町教育委員会 第1集
岡田光広ほか 1996『流山市南側遺跡・上貝塚第Ⅱ遺跡・上貝塚貝塚・下花輪第Ⅲ遺跡・三輪野山
第Ⅱ遺跡』千葉県文化財センター
尾形剛敏ほか 1988『城山遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会 第4集
立石盛詞ほか 1983『後張』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第15集
神谷佳明 1998『下芝五反田遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 第230集
龜山幸弘 2003『年保遺跡、鳥山遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 第321集
木戸春夫 1992『荒川附遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第112集
川村潤博 2003『堀内山遺跡』茨城県教育財団 第199集
栗岡 潤 2000『如意・如意南』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第241集
栗原文蔵 1972『水深』埼玉県遺跡調査会 第13集
鯉持和夫 1998『築道下遺跡Ⅱ』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第199集
鯉持和夫 2000『築道下遺跡Ⅲ』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第245集
高村薫・金沢文雄 1989『5古墳群と古代の集落』『中川水系』Ⅲ人文 中川水系総合調査報告2
下城正・黒澤弘弘 1996『響島川端遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 第224集
外山和夫・宮田裕紀枝 1989『板倉町の遺跡と遺物』考古資料編別巻9 板倉町町史編さん委員会
高井佳弘 2006『鳥悪途遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 第376集
武井 尚 1989『第2節 流域の歴史的展開』『中川水系』人文
上川明浩 1996『上江原遺跡発掘調査概報』明和村教育委員会
田中広明 1992『新屋敷東・本郷前東』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第111集
手塚達弥 2001『藤岡神社遺跡』財団法人栃木県文化振興事業団 第197集
寺沢知子 1992『カマドへの祭祀的行為とカマド神の成立』『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズV
徳江紀ほか 1988『成塚石橋遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 第79集
利根川章彦 2005『関東地方の古代・中世石材流通に関する一視点』『研究紀要』第27号 埼玉県立歴史資料館
中沢 悟 1986『龜の廃案について』『大原Ⅱ遺跡・村主遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
中村享史 1991『野木Ⅲ遺跡』財団法人栃木県文化振興事業団 第116集
橋本澄郎ほか 2001『権現山遺跡・百目鬼遺跡』財団法人栃木県文化振興事業団 第257集
景間孝志 1992『桑原遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第121集
平社定夫 1999『最終氷期以降の古環境の変遷』『埼玉の縄文前期』埼玉地区文化財担当者会
藤田 勝 1989『中三谷遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第76集
本間清利 1989『第2章第2節 利根川の瀬谷と流路の統一』『中川水系』Ⅲ人文 中川水系総合調査報告2
増嶋藤仁ほか 1989・1991・1994・2000『加地区遺跡群』Ⅰ～Ⅳ 流山市教育委員会
宮井英一 1985『太田遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第49集
宮田裕紀枝 1989『総括—道明山古墳・舟山古墳・筑波山古墳について—』『板倉町の遺跡と遺物』考古資料編別巻9
宮田裕紀枝 1999『薬師堂北遺跡・浮戸遺跡・新村下遺跡・城遺跡・舟山古墳・薬師堂古墳』『町内遺跡Ⅳ』
板倉町教育委員会
宮田裕紀枝 2000『大塚山古墳・岡西遺跡・後安遺跡』『町内遺跡Ⅴ』板倉町教育委員会
宮田裕紀枝 2001a『岡西遺跡・権山貝塚・権山横穴墓』『町内遺跡Ⅵ』板倉町教育委員会
宮田裕紀枝 2001b『沼田南遺跡・花和田遺跡・藤ノ木遺跡・板倉遺跡』板倉町教育委員会
山川守男 1995『城北遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第150集
山本 慎 2001『如意遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第264集
山本 靖 2000『築道下遺跡Ⅳ』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第246集
鎌水柏翠 1960『北川辺村の史的探究』『北川辺史の研究』第1巻 北川辺史談会
横瀬和俊 1989『埼玉の神社』入間 北埼玉 秩父
吉田 聡ほか 1997『築道下遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第188集
古河市史編さん委員会 1986『古河市史』資料 原始・古代編
羽生市史編さん委員会 1971『羽生市史』上巻

報 告 書 抄 録

ふりがな	いづみいせき							
書名	飯積遺跡Ⅱ							
副書名	大高島地区河川防災ステーション整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第334集							
編著者名	鈴木 孝之・岩瀬 譲・加藤 隆則							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1					TEL 0493-39-3955		
発行年月日	西暦2007(平成19)年3月28日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
いづみいせき 飯積遺跡 だいじく・4じちようき 第3・4次調査	さいたまけんさいたまぐん 埼玉県北埼玉郡 きたかわべまちおおざざい 北川辺町大字飯 づみあざほんむら ばんち 積字本村191-2番地 ほか 他	11424	001	36°11'24"	139°37'36"	20040408~ 20050930	4,900	河川防災 ステーシ ョン整備
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
飯積遺跡 第3・4次調査	集落跡	古墳時代後期 奈良・平安時代 中世・近世	住居跡 土坑 流路跡 住居跡 井戸 ピット 方形区画	120軒 28基 32軒 8基 37基	土師器・須恵器・石 製品・土製品・勾玉 ・管玉・白玉・耳環 ・鉄製品・鉄滓・陶 器・かわらけ		・古墳時代後期に 埋まった流路跡を 検出。この流路が 形成した自然堤防 上に古墳時代後期 から奈良・平安時 代の集落が営まれ た。 ・地山崩落防止の ため、土坑を掘り 粘土を詰め込んだ カマド掘り方に煙 道・煙出しを設け ている。 ・在地産の土器の ほか、群馬、栃木、 茨城地域の土器が 出土している。	

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第334集

北埼玉郡北河辺町

飯積遺跡Ⅱ

大高島地区河川防災ステーション整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告
(本文編)

平成19年3月22日 印刷

平成19年3月28日 発行

発行/財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県熊谷市船本台4-4-1

電話 0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷/関東図書株式会社